



# 今週の T2 経済レポート

2020 年 4 月 10 日号

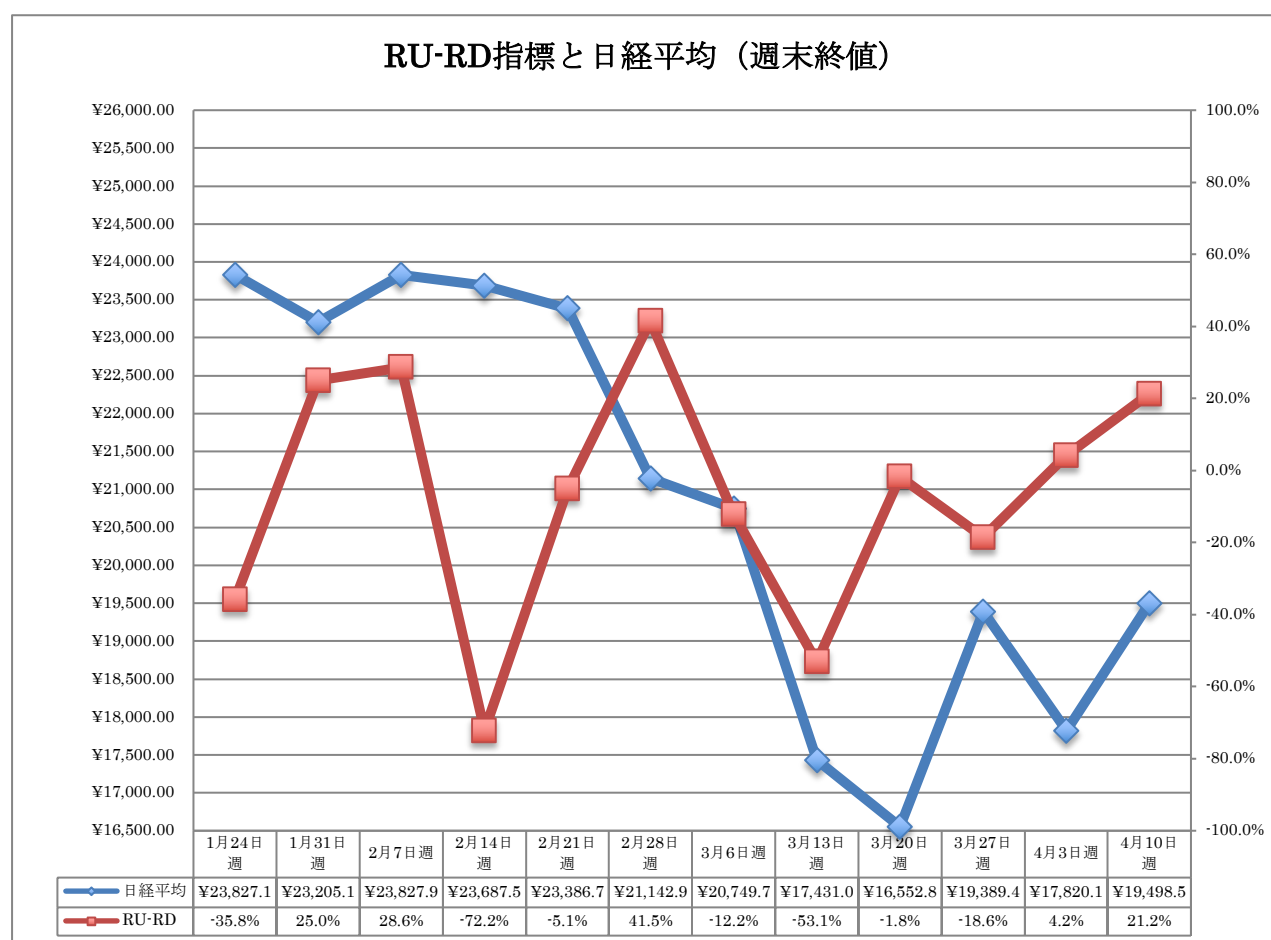
## ■■■ 市場ウオッチ ■■■

### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来は急反発が期待できる週ですが、史上最大の上げ幅・上昇率となった先週に前倒しされた可能性があります。今週(4/6~4/10)の相場を占う『RU-RD 指標』は 3 月 27 日週が +21.2%と 9 週間振りに 2 週連続のプラス圏となったことで堅調相場が継続しそうです。さらに、来週(4/13~4/17)の相場を占う 4 月 3 日週が +22.2%と、昨年 8 月 12 日週~9 月 9 日週の 5 週連続以来となる 3 週連続のプラス圏となったことで堅調相場がさらに継続しそうです。4 月 10 日にミニ SQ を迎えますが、投機筋の外国人がミニ SQ に向けてどのようなアクションをとるのが注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング 1 と 2)」「売り(レーティング 3 と 4)」銘柄比率』は 2 度の 5 週連続での上限ゾーンを突破後、1 月 31 日週 -18.6%→2 月 7 日週 -30.0%→2 月 14 日週 -11.4%→2 月 21 日週 -14.3%→2 月 28 日週 -71.4%→3 月 6 日週 -80.0%→3 月 13 日週 -91.4%→3 月 20 日週 -92.9%→3 月 27 日週 -90.0%→4 月 3 日週 -85.7%と推移し、10 週連続マイナス圏、かつ 19 年 5 月 13 日週~6 月 10 日週以来となる下限ゾーンの -40%超に 6 週連続で陥っています。また、同指標が -80%超となったのは「チャイナ・ショック」の 16 年 1 月 18 日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは 2009 年 9 月の「T2」開発以来初めての極めて稀な水準、かつ 3 週連続 -90%超継続していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。先週、-80%台にマイナス幅が縮小したことでようやく底入れの兆しが出てきています。

今週は、経済指標では、国内は、7 日に 2 月毎月勤労統計調査、2 月家計調査、2 月景気動向指数、8 日に 2 月機械受注、2 月国際収支、3 月景気ウォッチャー調査、2019 年度と 3 月の企業倒産、9 日に 3 月消費動向調査、3 月工作機械受注、4 月の地域経済報告(さくらリポート)、10 日に 3 月国内企業物価指数、海外は、9 日に米 3 月生産者物価、米 4 月ミシガン大学消費者マインド指数、10 日に中国 3 月消費者物価・生産者物価、米 3 月消費者物価、などが予定されています。10 日発表の 3 月消費者物価指数(CPI)は、前年比 +1.6%、コア指数は同比 +2.3%といずれも 2 月から鈍化する見通しですが、人口の多い地域の封鎖などが消費にどのような影響を与えているか注目さ

れます。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では10日のミニSQ、海外では、8日に米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨の公表が予定され、米FRBは実質ゼロ金利政策に踏み切ったその後、無制限の量的緩和(QE)も決めているが、さらなる金融緩和を模索していることが確認されたかが注目されます。また、10日はグッドフライデー(聖金曜日)で米・英など休場が予定されています。」とコメントしました。



3月20日週	3月27日週	4月3日週	4月10日週
¥16,552.83	¥19,389.43	¥17,820.19	¥19,498.50
-1.8%	-18.6%	4.2%	21.2%

先週の日経平均は、高値19500円(4月10日)・安値17802円(4月6日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、7日夕刻に安倍総理大臣は東京など7都府県を対象に5月6日までとする「緊急事態宣言」を発令、原油相場の急落も嫌気して安値目標値近くまで下落しましたが、NY州などで新型コロナウイルスの感染者・死亡者数がピークに達しつつあることが好感されたほか、民主党大統領候補で急進派のサンダース氏が大統領選を撤退、またロシアが原油協調減産で合意との報道を受け反発、週間ベースで+1678円高と前の週の下落分を取り戻すような

反発で終了しています(先週予告していた上値メド 20207 円～20611 円(+2%かい離)//下値メド 17784 円～17428 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、猶予で明日 8 日までに 19500 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。20000 円大台替えで仕切り直し、逆に、18500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、3 月 26 日までに 20000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。20000 円大台替えで仕切り直し、逆に、17000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、時間切れで、20000 円大台替えで仕切り直し、17000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期→となり、方向感がなくなり、乱高下しやすいかたちになりましたが、節目の 20000 円大台替えで本格的な反発局面に入るかたちです。

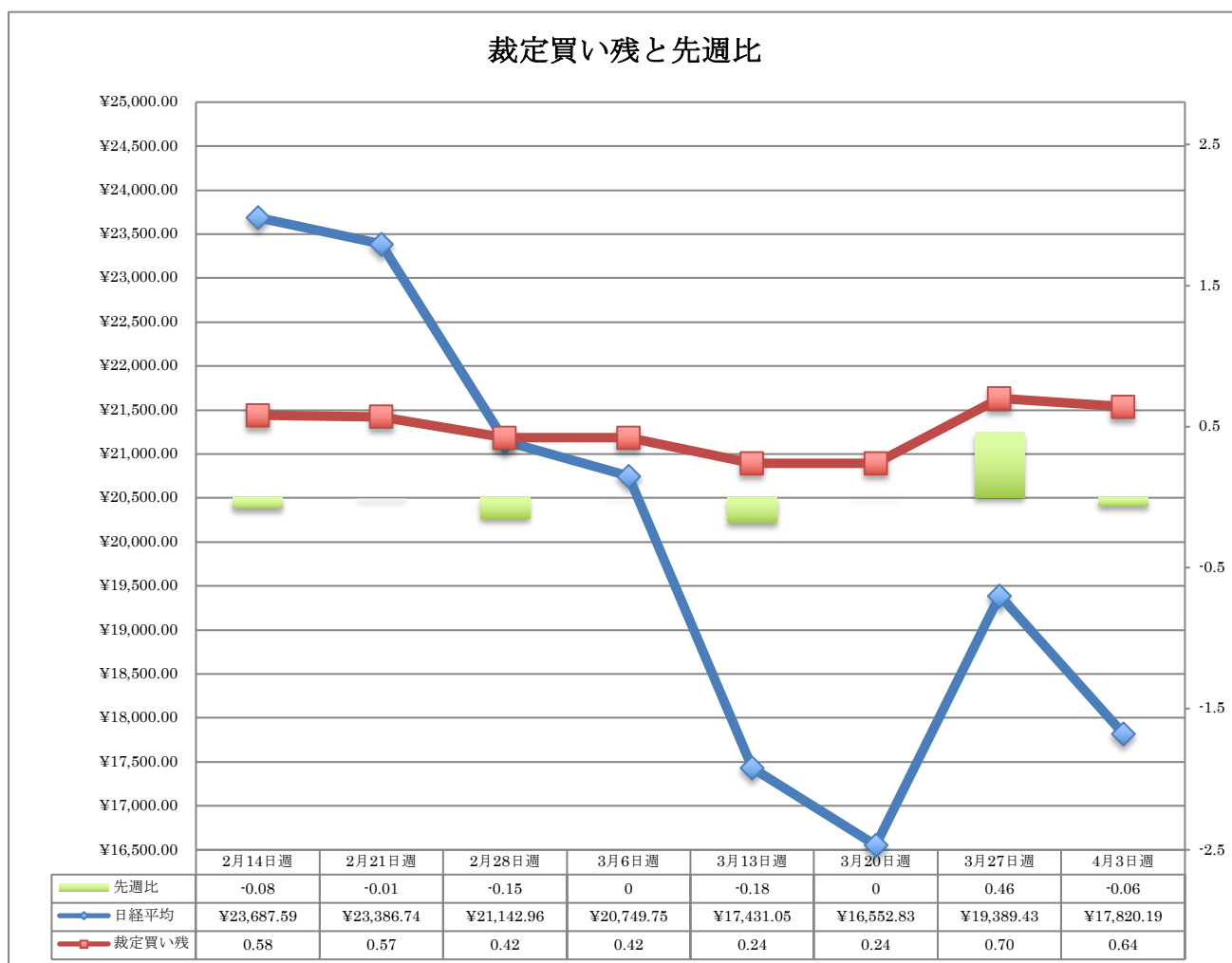
日経平均を左右する NY ダウは、高値 24008ドル(4 月 9 日)・安値 21693ドル(4 月 6 日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、米国における新型コロナウイルスの感染流行はピークに近いとの思惑が浮上したことや FRB による中小企業や地方自治体などの資金繰りを支援する新たな最大 2.3 兆ドル(約 250 兆円)の資金追加供給への期待から上値目標値を達成、週間ベースでは+2667ドル高と前の週の反動安を大きく上回って 1 か月ぶりに一時 24000ドル台を達成して終了しています(先週予告していた上値メド 23673ドル～24146ドル(+2%かい離)//下値メド 19767ドル～19371ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、4 月 8 日に 23500ドル大台替えで仕切り直しが入り、9 日に 24000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 1 日間、従って、10 日(休場のため猶予で週明け 10 日)までに 24500ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、23500 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、4 月 8 日までに 24000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、実現せずに時間切れ。25000 ドル大台替えで仕切り直し、22000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、4月に22000ドル大台替えで仕切り直しが入り、同時に、23000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入り、更に、24000 ドル大台替えでカウントダウン継続に 0 ヶ月、従って、4 月中に 25000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、23000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期↑、となり、目先は強含みのかたちに変化していますが、中長期は方向感がなくなっています。

一方、為替は、ドル・円が 109.37 円～108.19 円(先週予告していた上値メド 111.20 円～112.31 円(+1%かい離)//下値メド 106.21 円～105.14 円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週でしたが実質 2 週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.0958～1.0766(先週予告していた上値メド 1.1207～1.1319(+1%かい離)//下値メド 1.0659～1.0552(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週でしたが実質 2 週連続のドル安・ユーロ高。

また、ユーロ円は、119.03 円～117.13 円(先週予告していた上値メド 120.42 円～121.62 円(+1% かい離)//下値メド 117.15 円～115.97 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、2 週連続の円高・ユーロ安。前の週の円>ユーロ>ドルが実質 2 週連続で継続したかたちです。連邦準備制度理事会(FRB)は、中小企業、州・自治体を支援するため、最大 2.3 兆ドルの融資提供を表明したことで、米国経済の先行き不安がある程度緩和されつつあることからリスク回避的なドル売り・円買いが一服したかたちです。

## ＜裁定買い残＞

1月以来の7000億円台に急増後、若干の減少となっています。過去の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。一方、「裁定売り残」は、前の週比-134億円の1兆6045億円と3週連続の減少で、暴落後の急反発の原動力となっています。



	3月13日週	3月20日週	3月27日週	4月3日週
日経平均	¥17,431.05	¥16,552.83	¥19,389.43	¥17,820.19
裁定買い残	0.24	0.24	0.7	0.64
先週比	-0.18	0	0.46	-0.06

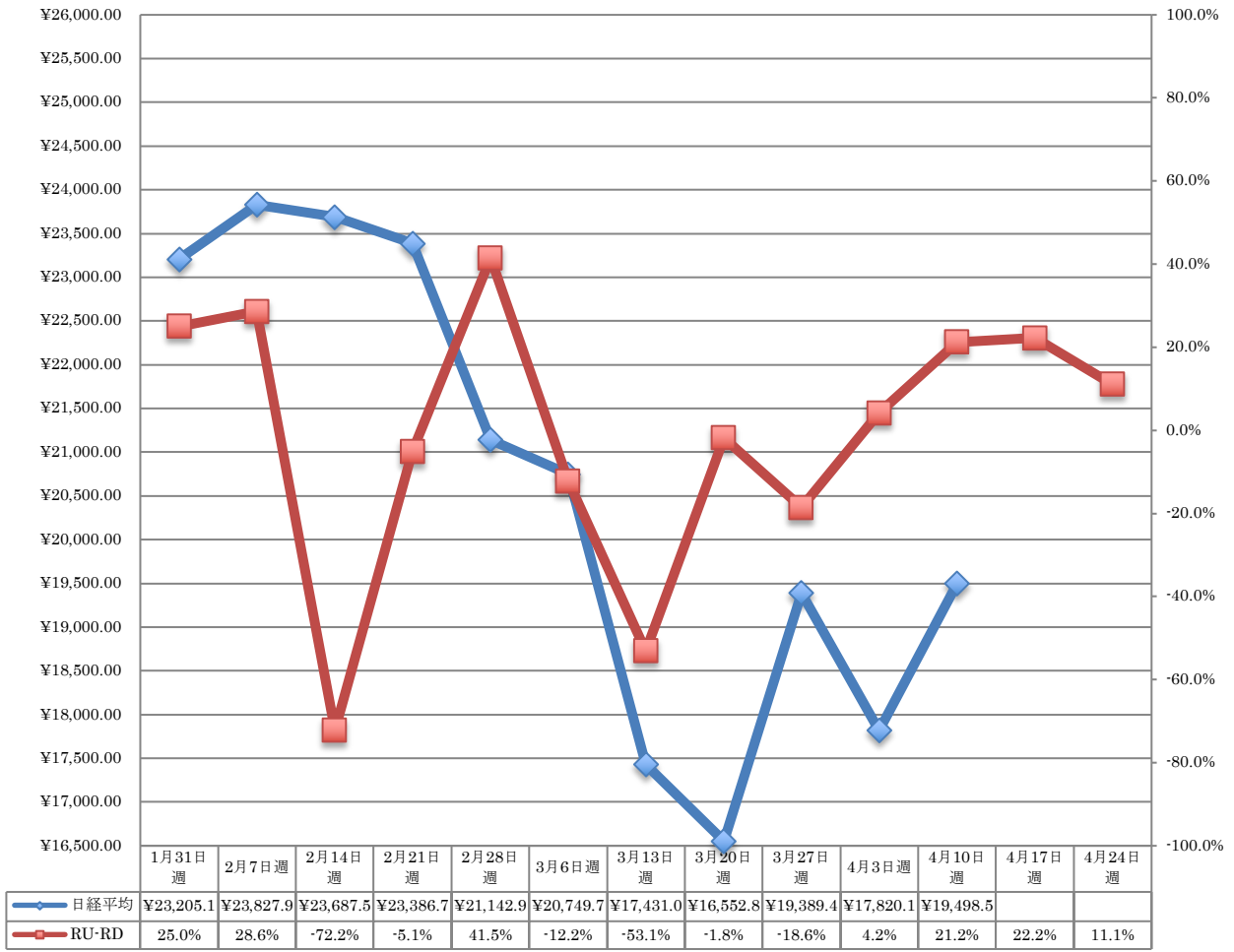
単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は堅調相場継続が期待できる週ですが、史上最大の上げ幅・上昇率となった先週に前倒しされた可能性があります。今週(4/13~4/17)の相場を占う『RU-RD指標』は4月3日週が+22.2%と、昨年8月12日週~9月9日週の5週連続以来となる3週連続のプラス圏となったことで堅調相場がさらに継続しそうです。来週(4/20~4/24)の相場を占う4月10日週が+11.1%と4週連続のプラス圏となったことで堅調相場継続がさらに期待できるかたちです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%と推移し、11週連続マイナス圏、かつ19年5月13日週~6月10日週以来となる下限ゾーンの-40%超に7週連続で陥っています。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めての極めて稀な水準、かつ3週連続-90%超継続していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。先々週以来、2週連続で-80%台にマイナス幅が縮小したことで底入れの兆しが出てきていますが、-40%を割り込んでくると本格的な反発が始まりそうです。

今週は、経済指標では、国内は、15日に3月訪日外客数、一方、海外は、15日に米3月小売売上高、米4月NY連銀製造業景気指数、16日に米3月住宅着工件数、米4月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、17日に中国1-3月期GDP、中国3月工業生産、中国3月小売売上高、などが予定されています。15日発表の3月小売売上高は、前月比-6.4%と予想されていますが、新型コロナウイルスの影響による雇用悪化で個人消費の落ち込みが予想を上回るかどうか注目されます。また、16日発表の4月フィラデルフィア連銀景況調査(製造業景気指数)は-25と大幅な低下が予想されています。このほかのイベント・トピックスとしては、米連邦準備制度理事会(FRB)は15日に地区連銀経済報告(ベージュブック)の公表を予定。新型ウイルスの蔓延拡大を受けた生産停止、休業を強いられた製造業や小売りが全米地区でどの程度、落ち込んだか状況が明らかになりますが、4月の地区連銀製造景況指数の結果には新型ウイルス危機の影響が100%織り込まれるため特に注目が集まりそうです。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



4月3日週	4月10日週	4月17日週	4月24日週
¥17,820.19	¥19,498.50		
4.20%	21.20%	22.20%	11.10%

## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 20188 円～20591 円 (+2%かい離)

下値メモ 17697 円～17343 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 25355 ドル～25862 ドル (+2%かい離)

下値メモ 21898 ドル～21460 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 109.32 円～110.41 円 (+1%かい離)

下値メモ 106.43 円～105.36 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1119～1.1230 (+1%かい離)

下値メモ 1.0678～1.0571 (-1%かい離)

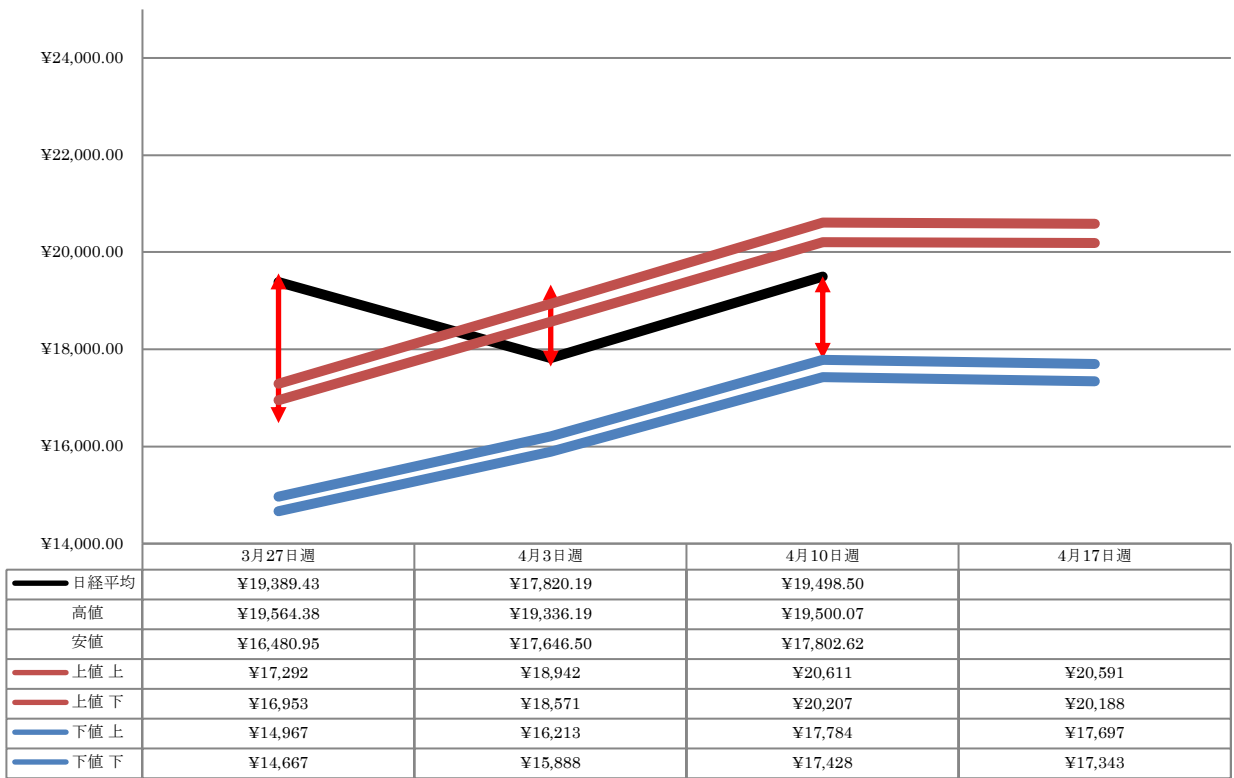
<ユーロ円>

上値メモ 119.36 円～120.55 円 (+1%かい離)

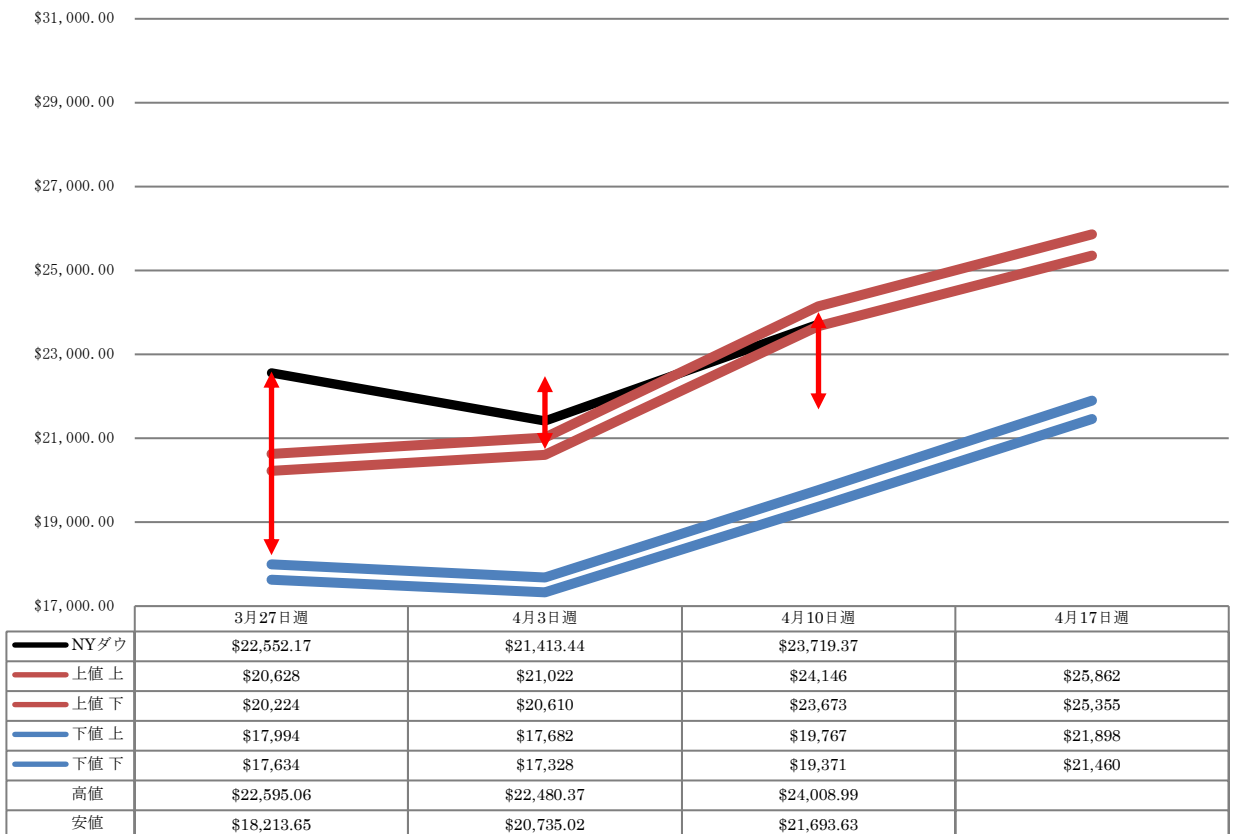
下値メモ 115.68 円～114.52 円 (-1%かい離)



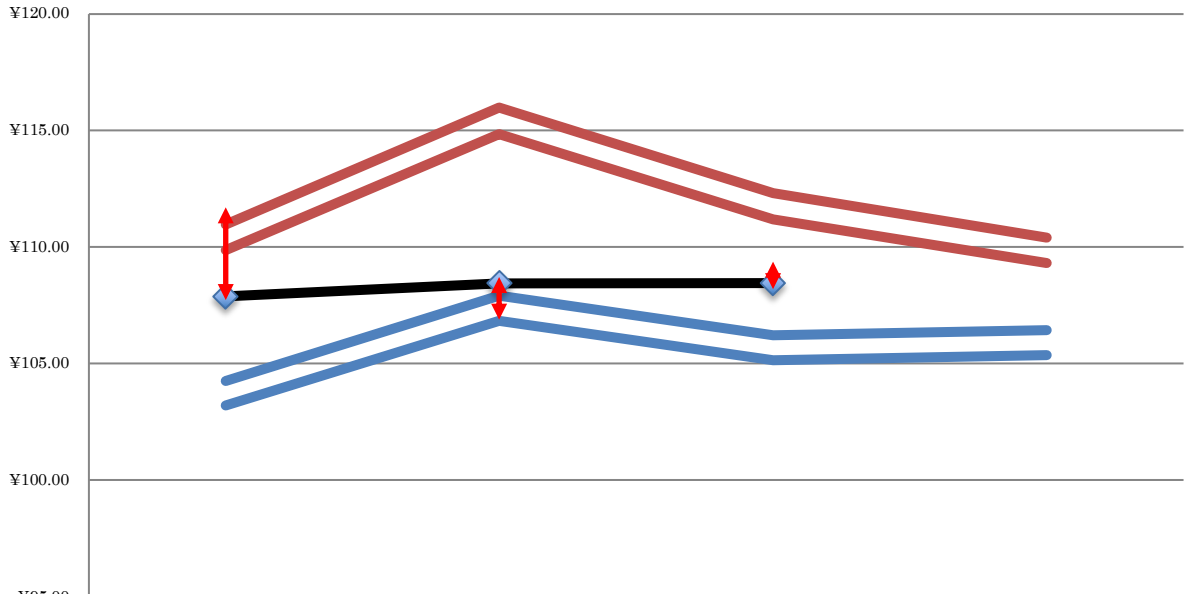
### 日経平均



### NYダウ

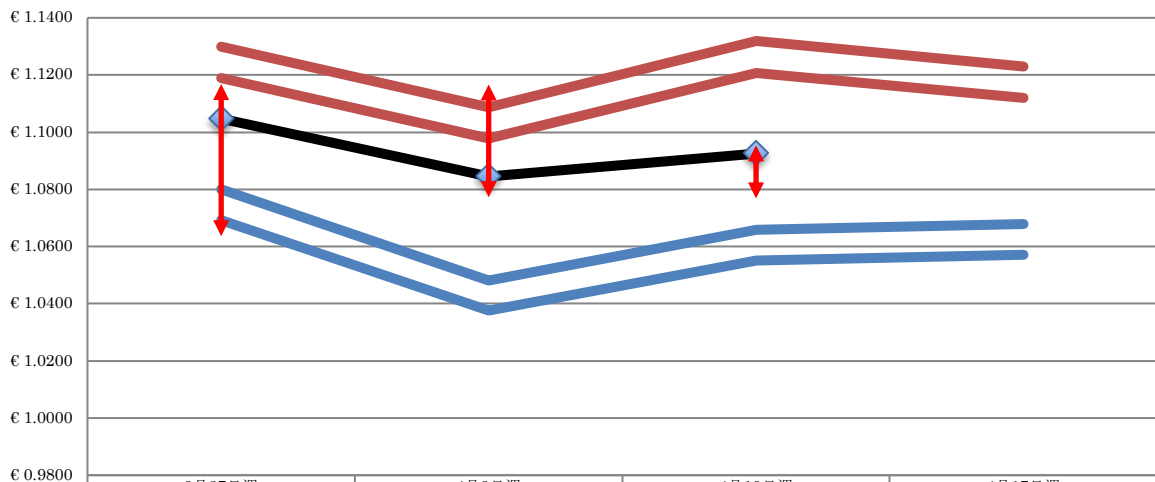


## ドル円

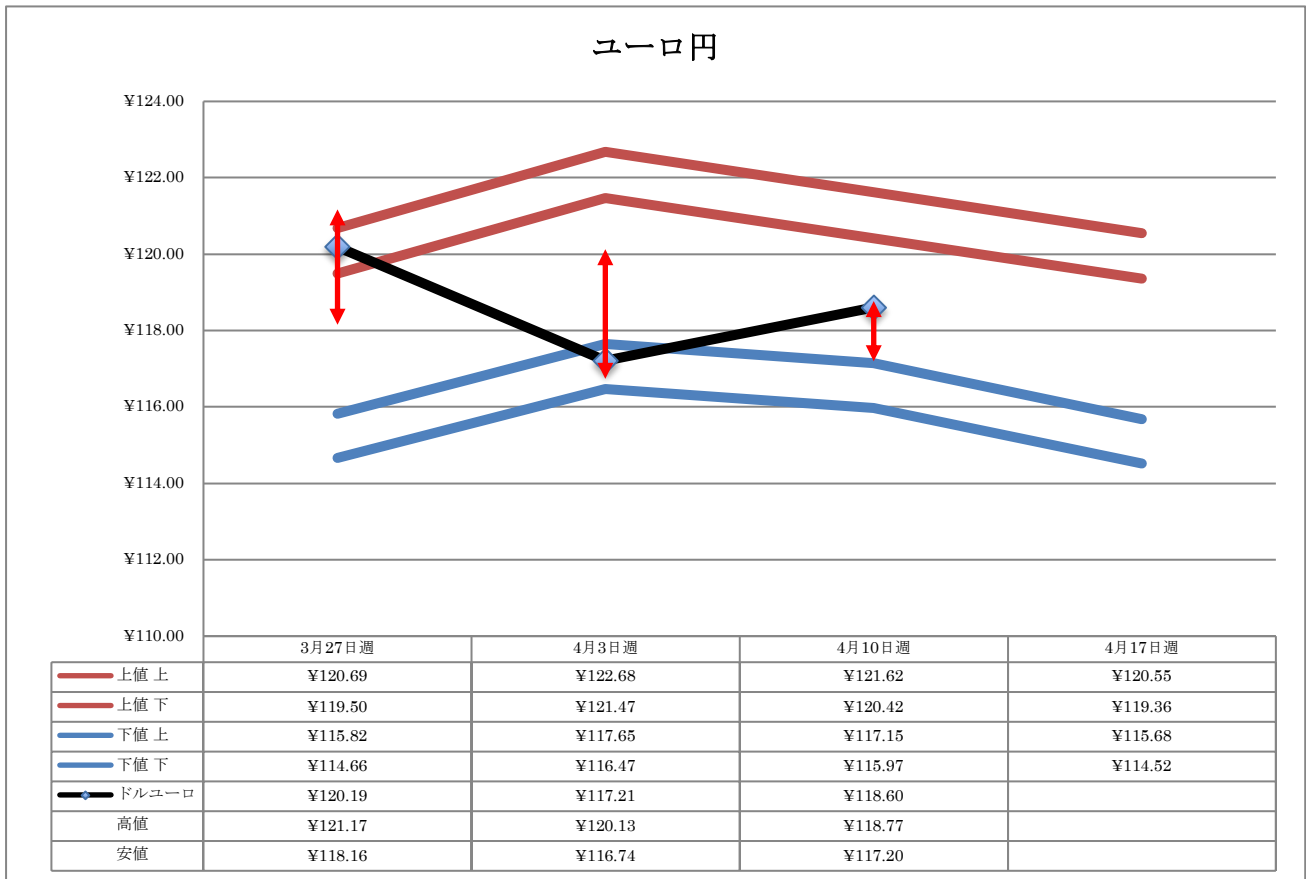


	3月27日週	4月3日週	4月10日週	4月17日週
上値 上	¥110.97	¥115.99	¥112.31	¥110.41
上値 下	¥109.88	¥114.85	¥111.20	¥109.32
下値 上	¥104.26	¥107.92	¥106.21	¥106.43
下値 下	¥103.21	¥106.84	¥105.14	¥105.36
ドル円	¥107.89	¥108.45	¥108.46	
高値	¥111.71	¥108.72	¥109.37	
安値	¥107.74	¥106.89	¥108.19	

## ドルユーロ



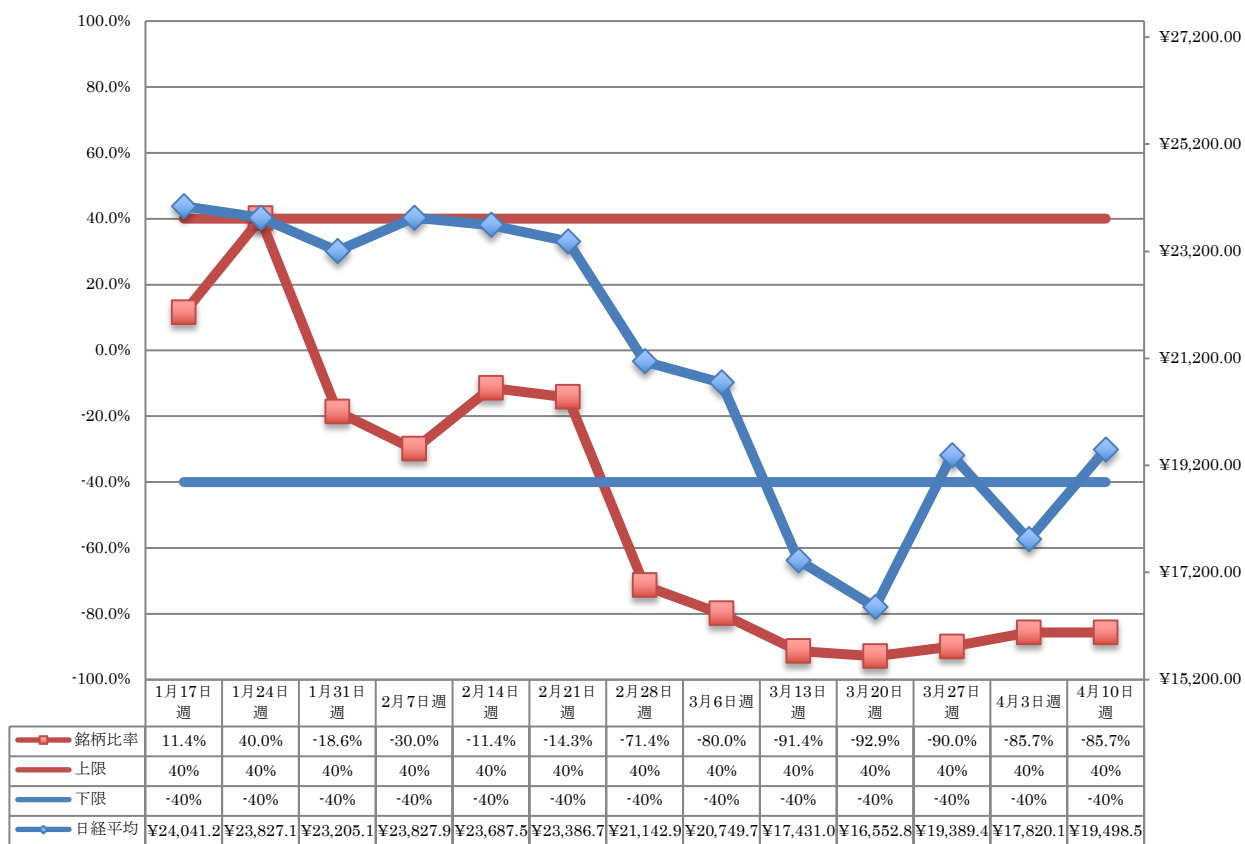
	3月27日週	4月3日週	4月10日週	4月17日週
上値 上	€ 1.1300	€ 1.1087	€ 1.1319	€ 1.1230
上値 下	€ 1.1189	€ 1.0978	€ 1.1207	€ 1.1119
下値 上	€ 1.0800	€ 1.0481	€ 1.0659	€ 1.0678
下値 下	€ 1.0692	€ 1.0376	€ 1.0552	€ 1.0571
ドルユーロ	€ 1.1047	€ 1.0845	€ 1.0925	
高値	€ 1.1169	€ 1.1168	€ 1.0954	
安値	€ 1.0636	€ 1.0773	€ 1.0769	



## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%と推移→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%と推移し、11週連続マイナス圏、かつ19年5月13日週～6月10日週以来となる下限ゾーンの-40%超に7週連続で陥っています。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めての極めて稀な水準、かつ3週連続-90%超継続していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。先々週以来、2週連続で-80%台にマイナス幅が縮小したことで底入れの兆しが出てきています。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。